

平成31年 3月31日

平成30年度東洋学研究情報センター機関推進プロジェクト実施報告書（項目1～6）

1. プロジェクト名

現代ネパール語重要書籍・資料の体系的収集・整理

2. 申請研究者

名和克郎（汎アジア部門・教授）

共同研究者

佐藤齊華・帝京大学文学部・教授

森本泉・明治学院大学国際学部・教授

3. 研究期間

平成29年4月1日から平成32年3月31日（来年度は個人研究費等で実施予定）

4. プロジェクトの趣旨、全体計画（400字程度）

申請者は1993年以来、主にネパールで刊行されたネパール語による書籍・資料を私費で収集してきた。その中には、現代ネパール研究の基礎書籍と言えるものも多く、また、1990年以降激変を繰り返してきたネパールの政治・社会情勢の状況を同時代的に証言する、今となっては入手困難な資料も含まれている。その大半が東京大学の図書館には所蔵されておらず、国内に全く所蔵されていないものも多いこれらの資料を中核として、現代ネパール語の重要書籍・資料を体系的に収集・整理していくことが、本プロジェクトの目標である。なお、申請者は既に平成28年度に一般プロジェクト「現代ネパール語書籍・資料の体系的収集・整理のための予備作業」を行っており、本プロジェクトは、東京圏在住のネパール研究者の協力により、これを発展・本格化させるものである。

5. 今年度の研究実施状況（400字程度）

共同研究者と協議の上、本年度購入したものを含む書籍・資料の整理を順次進めた。学生アルバイトを雇用して、ネパール語一部少数民族言語の書籍について、デーヴァナーガリー文字による基本的な書誌情報の入力に加え、より手間のかかるローマ字転写による書誌情報の入力作業をほぼ終え、平行して入力データの確認と資料内容の検討吟味を進めた。

ただし、資料のうちリンブー文字等、デーヴァナーガリー文字以外で書かれた文献、及び雑誌類に関しては整理が終了しておらず、来年度以降は個人研究費等を利用して引き続き整理を続けていく計画である。

6. 今年度の研究成果の概要（400字程度）

学生アルバイトを雇用して作業を進めた結果、2069点の文献についてデーヴァナーガリー文字による基本的な書誌情報に加え、ローマ字転写の入力を完了した。平行して東洋文化研究所図書館への納入に向けた資料内容の検討を順次進めた。

なお、整理した資料の一部については、共同研究者、アルバイトをお願いしている院生、及び班研究「南アジア北部における人類学的研究の再検討」の一部メンバー等と開催しているネパール語文献の研究会において詳細に検討しており、その成果は今後共同研究者の研究成果に直接反映される見通しである。